



CALL>WORK (ワーク) 日本カスタムセンター [048] 688-7656 / 中国本拠センター [022] 777-4512 /
 高日本拠センター [03] 6728-2859 www.work-ahleis.co.jp
 PHOTO>>RYO FUSAYO (写真家 矢野 龍雄) TEXT>>YUSU (編集者)

WORK GNOSIS FMB02 & FMB03

ワーク クラノス エフエムビエロツウ エフエムビエロツウ

高品質モノブロック鍛造ホイールの 新シリーズが誕生!

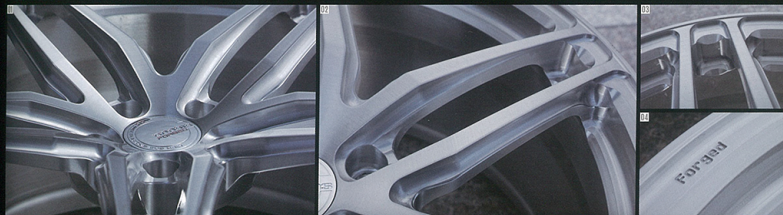
上質なデザインにもエレガントさを表現するワークのグノシスシリーズ。その洗練された仕様は高性能なユーロモデルにふさわしいスペックを有する。だが、ヨーロッパの自動車メーカーのモデルたちがますます高性能化していることもあり、より先鋭化させた高品質な鍛造モノブロックの新シリーズのFMBをスタートさせた。どちらも鍛造ワンピースながらセットも選択できるという優れもの。ターゲットは、やはりBMW M2 & M4、そしてAUDI A4 & A5という一級品の高性能モデルだけに、そこに見合った設計がなされている注目のシリーズとなっている。



GNOSIS FMB02

クラノス エフエムビエロツウ

ツイン5スポークデザインは
極限まで細くシャープな
イメージに!



1. ディスク裏はかり落とし込まれている。センター部の窪みは、モデル、タイプ、ウルトラタイプの3種類が用意される。1. スポーク自体も中央部がさくり削られており、徹底した軽量化がなされている。02. スポークの両側の基部部分に切り込みが施されており、軽量化には大きく貢献している。03. 鍛造ホイールであることを証明するForgedの文字が刻印されている。

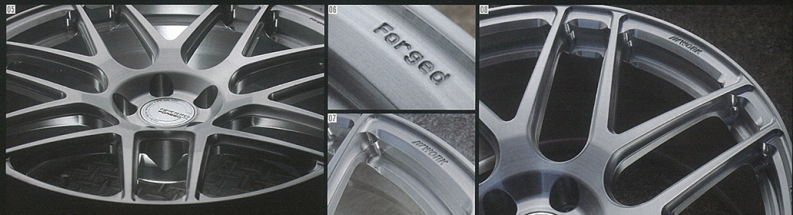
FMB02はツイン5スポークのディスクデザインで、一見オーソドックスな設定に思える。もちろんそれは間違いで、細部を見ていくとマシンングにより大胆に贅肉を削ぎ落とされていることが分かる。車削鍛造ならではの、スポーク部は巧みな造形がなされているのだ。中心部と基部部。そしてスポーク自体にも切削が施され、鍛造ホイールだからこそ実現できた細くても剛性を損なうことがないことからの大胆さといえる。この加工により足長感を得ており、伸びやかでホイール自体をより大きく見せる効果も得ている。さらにぐっと落とし込まれたイメージにもなっており、センターカラー具合も強調されスポー

ルのキャラクター作りにも効いているのだ。もちろん、贅肉をマシンング加工により削ぎ落とすことで軽量化も実現。見た目以上に軽量化されており、高性能鍛造ホイールならではの極限までの性能選取がなされている。スポークデザインはヨーロッパの車をメインターゲットとしており、スポーティ性とエレガントさを併せ持つキャラクターは、ワンランク上質なモディファイを実現してくれるはずだ。なお、基本カラーはブラックとなっており、このところのユーロモディファイの基本をしっかり押さえていることも見逃せない。インセットの選択もできる意欲的な高性能鍛造モノブロックホイールの誕生について間違い存在だ。

GNOSIS FMB02 PRICE

SIZE	MOLE/PCD	FINISH	PRICE (税別)
19x8.0J			未定
19x8.5J			+
19x9.5J			+
19x10.5J			+
19x11.0J			+
20x8.5J	5H 108-120	ブラック/グリスド	¥132,000-
20x9.0J		ブラック/グリスド	¥134,000-
20x9.5J			¥136,000-
20x10.0J			¥138,000-
20x10.5J			¥140,000-
20x11.0J			¥142,000-

●補注: 補注1: ヒース ●ディフuser: バイロン フラッグ/グリスド: フラッシュ ●オプション: 軽量化オプション: フラッグ/グリスド: ヒース/グリスド/グリスド: フラッシュ ●補注: ヒース ●ディフuser: バイロン フラッグ/グリスド: フラッシュ ●オプション: 軽量化オプション: フラッグ/グリスド: ヒース/グリスド/グリスド: フラッシュ



図、メッシュタイプのFMB03ホイールはコンケープとなっている。こちらモデル、ディープ、ウルトラディープ3タイプの深とし込みの深さを選ぶことができる。図、あくまで性能にこだわったホイールだが、個性を追求するForgedの文字は高性能の証し。図、リムによって内周肉厚が薄くなっている。もちろんスポーク先端の接合部もリムが削られており、細身となっている。これも、レックリ層性3層構造になっている。図、基本カラーはこのフィニッシュとし、良い材料の美しさを活かしたラインアップが実現している。

FMB03は定番といえるメッシュデザインだが、もちろん鍛造モノブロック設定ならではの仕掛けが随所に施されている。なかでも注目はグノーズシリーズ中、最も高い剛性を実現していること。さらに応力の分散を理論的に実現した吹流メッシュとしたことで、剛性と強度とバランスを理想的な配分としている。それにより、従来車の性能をスポイルすることなく、ターゲッドとしていた高性能ユーロスポーツモデル用ホイールとして最適化しているのだ。

カラー設定もブラッシュを基本としており、高級ホイールらしさを存分に見せてくれる。デザイン&カラーとも定番でハズンがないがこのFMB03の真価といえる。さらに、インセットの選択が可能なの

ともポイント。

もちろん、このモデルもマシニング加工により、スポーク1本、1本からざっくり贅肉を落とす切削をしている。鍛造だからその可能な軽量化を徹底している。色気やデザイン的演出が向かひのでもなく、むしろすまじかにホイールの剛性と強度のバランス、軽量化を追求した性能重視の設計ということも好意の持てる部分だ。カラーバリエーションはもはやユーロの基本となっているブラッシュを基本に、鍛造ならではのアルマイト仕上げを用意している。鍛造であることに意味を持たせていることも大きい。ユーロモデルの標準ホイールになりそうな注目製品といえる。

■GNOSIS FMB03 PRICE

SIZE	HOLE/PCD	FINISH	PRICE(税別)
18x8.0J		基本	→
19x8.5J		基本	→
19x9.5J		基本	→
19x10.5J		基本	→
19x11.0J		ペイント	→
20x8.5J	SH/108~120	ブラック/グライズ	¥138,000→
20x9.0J		ブラッシュ	¥134,000→
20x9.5J		基本	¥136,000→
20x10.0J		基本	¥138,000→
20x10.5J		基本	¥140,000→
20x11.0J		基本	¥142,000→

●精工 鍛造ホイール ●メッシュカラー/ペイント、ブラック/グライズ、ブラッシュ(18インチ～20インチ) ●吹流メッシュ(18インチ～19インチ) ●吹流メッシュ/ブラック/ペイント(20インチ) ●吹流メッシュ/ペイント(20インチ) ●吹流メッシュ/ペイント(20インチ) ●吹流メッシュ/ペイント(20インチ) ●吹流メッシュ/ペイント(20インチ)

GNOSIS FMB03

クローズド エアフロー エアロウ

強度と剛性を
ベストバランスに!

アクロスメッシュデザインにより



ユーロのホイール選択において重要な「品質」と「信頼性」を支える

JAWA

クルマのスタイリングのキモとなるアルミホイール。今やその選択肢は無数だとってもいは多く多くの製品が溢れている。だが、デザインや価格だけで選ぶのは危険。ユーロの走りを楽しみ、安全に楽しむとする部品だけに、品質にこだわりの信頼できる製品をセレクトしたい。そこで、アルミホイールの安全性や品質信頼性に尽力しているJAWAをご紹介します。信頼できるアルミホイールとは何かを考えてみたい。

PHOTO >>> HIYATARO SHIMIZU (清水友太郎) TEXT >>> eS4 Association >>> NAPAC www.napac.jp

本誌読者なら、ホイール選びにおいてはデザインのみでなく、鍛造/鍛造、あるいは1/2/3ピースといった製造や構造の部分まで気にするに違いない。なぜならその効果はクルマのトップの上だけでなく走行性能にも関係するからだ。逆に言えば質の悪いホイールは走りを楽しめるだけでなく危険でもなるのだ。

そんなアルミホイール選びにおいて一つの指針となるのがJAWA 事務所だ。JAWA (ジャパンライトアルミホイールアソシエーション) は、NAPAC (一般社団法人日本自動車用品・部品アフターマーケット振興会) の一事業部として、アルミホイールの安全性向上や品質維持を図るための活動などを行っている。一般的によく知られているのは、国土交通省の定める「軽合金製ディスクホイールの技術基準」に適合させるための試験を行っていることで、これに合格したホイールにはJWLの封印が入れられている。JAWA 会員はさらに基準クリアを裏付ける強度試験を実施し、合格して登録された製品への「VIA マーク」の捺出し・刻印を施している。ホイールを登録の際の基準としてJWL及びVIAマークの有無を確認するのは有効な手段だ。

またホイールには様々な製法があり、それぞれメリットは異なる。そこで、JAWA 会員であり、さまざまなホイールの製造を手掛ける株式会社ワーク第二営業部の吉川雅章さんに話を聞いた。

「一般的に鍛造は強度の面で鍛造より優れていると言われています。デザインや素材などにも影響されますので、一概には言えませんが、同じ強度を目標にすれば、鍛造のほうが強い可能性が高くなります。ただし、最近ではリムを圧縮加工する鍛造に近い製法の鍛造ホイールも出てきていますので、その差は縮まっていくとも言えます。また、鍛造にも全鍛造と切削鍛造という2つの製造方法があります。それぞれ特徴があります。全鍛造はアルミ材料を効率的に使用できます。切削鍛造ならエッジの利いたシャープなデザインを実現することができます。ただし、鍛造でも鍛造でも、信頼性の高いホイールを選んでいたことが重要だと思います。

アルミホイールにおいては、デザインや構造、製法に加えて、高い安全性を確保する品質と信頼性にも注意する必要があります。

株式会社ワーク 第二営業部 吉川雅章 営業部長



切削鍛造製法で作られたレース用ホイール。軽量で高剛性が要求されるレース用ホイールには、さまざまな工夫が凝らされている。例えばリムエンドまで伸ばされたスポークは大きな力を受けるとリムに伝わりやすくなる。また、スポークの間に穴を開けたり、強度アップにもつながっている。切削鍛造は一般よりも部品を入れる穴のほうに削りこんでいくという特徴を持っている。また、鍛造鍛造ならではのシャープなエッジ部分にも、デザイン性を追求する企業も少なくない。鍛造鍛造は、新しいレース場で求められるテクノロジーのフィードバックが、切削鍛造にも伝えている。



JAWA では、第三者機関による「衝撃試験」(写真左)、「回転疲労試験」(写真中央)、「半径方向負荷耐久試験」(写真右)の3つの強度試験を実施して合格品のVIA登録を進めている。他にも約20%以上以上の試験「JAWA 推奨強度試験」の検査を実施し、認定マシンの取得に成功している。



ホイールには、ディスクとリムが一体となっている1ピース(モノブロック)鍛造ホイールのほか、ディスクとリムに別れた2ピース、さらにリムがインナーとアウトナーに分かれ、ディスクをサンディッチする構造となる3ピースに分かれる。